

## 「3.11 伝承ロード New Destination プラン」 第2回 三陸沿岸道路エリア活性化検討会

日時：令和4年12月2日（金）14時00分～  
会場： マリオス 18階 第187会議室

### 意見交換内容

#### 1)前回の議事録確認

#### 2)主な意見と今後の対応案

##### ●河北新報社 安野委員

- ・方針について、モデルルートを作って終わりではないというのは了承した。
- ・対応案として具体的なアウトプット(目指すところ)が見えず、わかりづらい。

##### ●奥村座長

- ・結局何をするのか？

##### ●事務局

- ・前回まではツアールート of 提案であった。
- ・今後は具体的なテーマを示す必要があると考えている。周遊することで得られる価値・魅力を今までに無いような切り口で提案していきたい。

##### ●奥村座長

- ・テーマが先あって、テーマに沿った施設を色分けするというやり方。
- ・これは研究を通して感じたことだが、仕組まれた観光で満足させるのも良いが、体験時に感じたこと、得た感覚を大事にしてもらうことが必要。
- ・体験する前に洗ざらい情報を提示してそれら全て提供し、満足して帰ってもらおうというのがこれまでの方向性。それだとリピーターに繋がらない。
- ・ある場所で体験したことを、別の場所で違う角度から体験してもらうことで次へと繋がる。  
(例えば水産物の加工場の見学→そこで取れた水産物を使った料理が楽しめる場所→漁に使用する道具の製造場所といった流れ)
- ・この様に全て情報をはじめから提示せず、情報自体はそこに行けばわかるようにしておき、繋がりを高めるやり方もあり。

##### ●岩手県北自動車(株) 平澤委員

- ・座長の考えも1つだと思う。
- ・弊社は復興ツーリズムに取り組んでおり、「こうしてほしい」「こうしよう」ではなく、「こうでした」と実際にやってきたことを提供している。
- ・教育旅行に的を絞って何を学びたいかを提示してはどうか。
- ・目的・テーマをはっきりさせ、そのための学びの場所や効果等を可視化し、提供していくと良い。

##### ●(一社)東北観光推進機構 紺野委員 代理：澤田氏

- ・経験上リピーターになってもらうのは難しい。1人がリピーター化するよりも、複数の人に来てもらった方が口コミの効果は高い。まずは知ってもらうことが重要。
- ・語り部は教育旅行で現在でも需要がある。教育旅行で一度訪れたが、大人になってもう一度来てみよう、家族と一緒にいってみよう等、結果的にリピーターに繋がっていく。
- ・事前に教育旅行にどのような効果があるのかを先生・親に説明し、理解してもらう。事前情報は重要。営業時間等のベーシックな情報も必要。
- ・ルートはプロ(旅行会社等)にまかせ、コンテンツの発掘に力を入れてはどうか。

●三陸ホテル観洋 阿部委員

- ・観光客は当時のことを聞いても良いのか戸惑うようだ。
- ・語り部の取り組みは地域を前進させたり、気持ちを前向きするために重要。
- ・「言いにくい」は「聞きにくい」に繋がる。伝承ロードやマップができてありがたいと思っている。
- ・この検討会は、点でしかなかった各自の取り組みが繋がりに面となる役割を担っている。
- ・震災遺構があることで語り部も語りやすくなる。メッセージ性のある震災遺構は残すべきと考える。
- ・修学旅行はコロナ禍でも続いていた。子供が学んだことは大人にも影響を与え、集客へと繋がる。コロナ禍で海外旅行者や大都市への旅行者が東北へ目を向けるようになったが、収束後も来ていただけるように震災学習の重要性を継続的にアピールしていけたらと思う。

●岩手県復興防災部復興推進課 澤田委員 代理:米澤氏

- ・今後の対応案に関して、ツアールートの提案から考え方へと変更するとのことだが、アウトプットの先のアウトカムとしてその先に何があるのか。
- ・前はアウトプットとしてモデルルートを示し、アウトカムとして民間事業者によるツアー販売等を目指すとのことだったと理解している。
- ・アウトプットを考え方へと変更した際、その先のアウトカムはどうなるのかお聞きしたい。

●事務局

- ・考え方を示したとしても、ある程度のモデル的なコースを示す必要がある。
- ・どういった考え方でどんな価値があるか示したいが、現段階ではまだ具体的なことは決まっていない。
- ・価値や考え方を旅行業者に汲み取ってもらい、独自のコースを設定してもらえたらと思っている。
- ・検討を重ねた上でモデルルートは示していきたい。

●岩手県復興防災部復興推進課 澤田委員 代理:米澤氏

- ・行政の立場から申し上げますと、財団法人だからこそできることがある。行政ではできないアウトプットを是非お願いしたい。

●東北地方整備局道路部 伊藤委員

- ・今回アウトプットが変わることで、当初(第1回)から検討の流れを大きく変えるのか教えていただきたい。

●事務局

- ・検討の流れを変えるつもりはない。当初の流れ通りモデルルートは示す必要がある。
- ・我々が示した考え方がコース上にあるかをモニターツアー等で確認してもらい、それがなかった場合は改善していく様な流れで考えている。

●奥村座長

- ・「1度では理解できない。次は誰に話を聞けばもっと理解が深まるか」みたいなものがテーマに感じる。
- ・「今回はこの人の話を聞いて考えてみよう、次来たときは同じ様な体験をしたが違う意見を持った人に聞いてみよう」といった様なことを重ねて行くことで、地域を多面的に理解してもらうことへの手掛かりになると思う。
- ・伝承ロード推進機構でやることなのかはまだ議論できていないため、一度持ち帰り、今後検討していきたい。

●河北新報社 安野委員

- ・今の座長のお話を踏まえると探求型のモデルルートとなるのかなと思う。
- ・モデルルートだけではなくモデルパターンを示せると面白いのでは。

●奥村座長

- ・やはりテーマ先行で行かなくてはならないと思う。
- ・教育旅行については、何を学ぶのか、学べるのかを示す必要がある。
- ・個人旅行に関しては、これからの時代、旅行者からの2次的情報(口コミ等)が重要となってくる。単なる表面的な口コミではなく、感想も含めてこんなことが学べた、面白かった、こんな話が聞けたといった情報を集めていける場所があってもいい。
- ・みなさんの意見を聞いて、テーマをしっかりと整理していくことが不可欠だと感じた。

### 3)自治体ヒアリング結果

●奥村座長

- ・三沿道の開通により、オートキャンプ場利用者、道の駅の車中泊等が増えるのは理解できるが、地元の方との交流が希薄になってしまうのが残念。例えばそういった集客が見込める場所に地元の食材を提供したり、季節の楽しみ方を教えたり等、地域とどう結び付けていくのが課題。
- ・時間が読めるようになったことで日帰り客が増えている。朝にしか体験できないようなものが沢山あるので(特に港町)、泊り客を増やすために朝の価値を高めてはどうか。

●三陸ホテル観洋 阿部委員

- ・震災により多くのものを失った地域なので、そこをどう活かすかを意識している。
- ・夜は星がよく見えるようになったため「スターパーティー」を開催している。
- ・伝承施設にも登録されている「海の見える命の森」では体験学習を開催し、自然との関り(海と森との関係性)を体験してもらっている。
- ・伝承には必ずしもきちんと整った施設が必要というわけではない。
- ・南三陸の朝活としては、絶滅危惧種のコクガンを見ることができる場所がある。
- ・まだまだ伝えきれていないものもあるので、こういった検討会や取り組みを通じて新たなスポットをピックアップし、集客につなげていきたい。

●(一財)VISIT はちのへ 阿部委員

- ・八戸は朝市が有名。特に日曜に開催している館鼻岸壁朝市には毎週2万人ほどの観光客が訪れ、そのほとんどが現地に宿泊している。八戸はビジネス客が多いが、土曜日でもホテルの稼働率が高い。

- ・朝市のほかにも、魚菜小売市場魚の「朝ごはん」や、漁師鍋を食べる体験等も行っている。地元の方と観光客との交流が重要と考えている。
- ・自治体ヒアリング結果にもあったが、交流人口を増やすため、様々な団体と連携し、三陸を活性化する取り組みを行っている。